

5 学会口頭発表

学会の口頭発表は研究活動を広く知っていただくと共に、専門家との議論を通じて研究の質を高めることにある。これは研究所として重要な仕事の一つである。学会での口頭発表はまず研究所の談話会で発表する事を内規としている。発表件数は1969年から1991年3月までに88編、年平均4編である。研究員は一人あたり平均5学会に加入して自己研鑽に努めている。



ソ連邦研究者との記念撮影（1974年2月）

発表年	氏 名	演 題	学 会 名
1969	大木 靖衛*1 鈴木 孝雄*1 平野 富雄*2 松原 勝彦	神奈川県湯河原地熱地帯の変質作用	岩石鉱物鉱床学会
	* 1 神奈川県立城内高等学校 * 2 日本大学		
1971	大木 靖衛 平野 富雄*1 鈴木 孝雄	熱水変質地帯における沸石の生成条件について	火山学会
	松尾 禎士*2 日下部 実*2 平野 満里子*2 平野 富雄 大木 靖衛	箱根火山地帯の水のD/Hおよび ¹⁸ O/ ¹⁶ O (予報)	火山学会
	平賀 士郎	箱根火山の最近の地震活動	火山学会
	広田 茂 粟屋 徹	箱根温泉の異常高温	火山学会
	大木 靖衛 平野 富雄	NaCl 型温泉の生成条件	火山学会
	* 1 神奈川県立城内高等学校 * 2 東京教育大学		
1972	平野 富雄 小鷹 滋郎 大木 靖衛	箱根湯本、塔ノ沢温泉の泉質	火山学会
	平賀 士郎 伊東 博	箱根火山に発生する群発地震の特徴	火山学会
	大木 靖衛 小鷹 滋郎	試錘結果からみた箱根カルデラの地下構造	火山学会
	大木 靖衛 平野 富雄*1 鈴木 孝雄	沸石の安定関係と熱水系中のシリカ溶存量	火山学会
	大木 靖衛 平野 富雄*1 鈴木 孝雄	溶解度測定法による造岩鉱物の生成自由エネルギーの求め方の問題点 一特にアルミニウムの溶存状態について	火山学会
	* 1 神奈川県立城内高等学校		
1973	平賀 士郎	箱根群発地震の最大地震について	火山学会
	大木 靖衛 平賀 士郎 小鷹 滋郎 平野 富雄*1 鈴木 孝雄	箱根大湧谷における硫化水素中毒死事故について	火山学会
	平賀 士郎	カルデラ周辺の地震	火山学会
	* 1 神奈川県立城内高等学校		
1974	長瀬 和雄 萩野 喜作 小沢 清	人工かん養実験 (I) 秦野盆地における深井戸による	日本地質学会
	平賀 士郎 伊東 博	伊豆半島沖地震の調査	地震学会
	大木 靖衛 平賀 士郎	箱根火山性地震を説明するための熱水モデル	火山学会

発表年	氏 名	演 題	学 会 名
1974	宮崎 務 ^{*1} 行田 紀也 ^{*1} 平賀 士郎	富士山の地震活動について	火山学会
	平賀 士郎	地震前後の温泉変化について	火山学会
	袴田 和夫 ^{*2} 大木 靖衛 ^{*2} 小鷹 滋郎	箱根火山末期の活動と年代	火山学会
	大木 靖衛 ^{*2} 平野 富雄 ^{*3} 鈴木 孝雄 ^{*3}	熱水変質作用のCO ₂ 分圧の推定	火山学会
	* 1 東京大学地震研究所 * 2 箱根町立大涌谷自然科学館 * 3 神奈川県立城内高等学校		
1975	長瀬 和雄 荻野 喜作 横山 尚秀	人工かん養実験 (Ⅱ) — いわゆる目づまり現象について —	日本地質学会
	横山 尚秀	秦野盆地の浅層地下水について	日本地理学会
	横山 尚秀 ^{*1} 綾部 弘	秦野盆地の深地下水について	日本地理学会
	大木 靖衛 ^{*2} 袴田 和夫 ^{*2}	箱根冠ヶ岳の溶岩尖塔について	火山学会
	大木 靖衛 ^{*2} 平野 富雄 ^{*2}	熱水のシリカ温度計の問題点	火山学会
	大山 正雄	湯河原温泉の水頭	地理学会
	大山 正雄	湯河原カルデラ内の透水性について	地理学会
	* 1 神奈川県秦野市 * 2 箱根町立大涌谷自然科学館		
1976	平賀 士郎 伊東 博	山梨県東部地震 (1976. 6. 16) 調査	地震学会
	横山 尚秀	厚木市温水の井戸水温度の異常上昇について	神奈川県公衆衛生学会
	粟屋 徹 平野 富雄 大木 靖衛	箱根火山の温泉の水銀含有量について	火山学会
	平賀 士郎	噴火前後の温泉変化	火山学会
	大山 正雄	エアリフト・ポンプによる揚水試験について	地理学会
1977	長瀬 和雄 大木 靖衛 荻野 喜作	秦野盆地の地下水 — 地下水の人工かん養 —	日本地質学会
	大木 靖衛 ^{*1} 鈴木 孝雄 ^{*1} 平野 富雄 ^{*1}	丹沢山地の高 pH 地下水	火山学会
	松尾 禎士 ^{*2} 日下部 実 ^{*2} 平野 富雄 ^{*2} 大木 靖衛 ^{*2}	箱根火山の熱水の起源	火山学会
	平賀 士郎 伊東 博	最近の箱根火山の地震活動について	火山学会
	渡辺 修一 ^{*2} 日下部 実 ^{*2} 平野 富雄 ^{*2} 大木 靖衛 ^{*2}	湯河原熱水系のボーリングコアに含まれる方解石の酸素および炭素同位体比	日本地球化学会

発表年	氏 名	演 題	学 会 名
1978	大山 正雄	エアリフト・ポンプのエア管長と揚水量について	地下水学会
	* 1 神奈川県立小田原城内高等学校 * 2 東京工業大学		
1979	長瀬 和雄 加藤 隆 *1	秦野盆地における深井戸による地下水の人工かん養 — 温排水の注水 —	日本地下水学会
	大木 靖衛 平賀 士郎 伊東 博	1978年伊東沖地震の調査	地震学会
	平野 富雄 大木 靖衛	熱海、湯河原地熱地帯の熱水変質作用	火山学会
	平賀 士郎	浅間火山の爆發地震について	火山学会
	* 1 神奈川県秦野市		
1980	長瀬 和雄	秦野盆地金目川流域下大概付近の地下水の流動機構のシュミレーションについて	日本地下水学会
	大木 靖衛 袴田 和夫 *1	箱根神山の水蒸気爆發と芦ノ湖の逆さ杉	火山学会
	* 1 箱根町立大涌谷自然科学館		
1982	杉山 茂夫 大木 靖衛	箱根大涌谷の最近の噴気活動	火山学会
	長瀬 和雄	秦野盆地の水文地質 — 地下水収支シュミレーション —	日本地質学会
	長瀬 和雄 *1 尾上 洋一 *1 内藤 昭治 *1 高橋 考則 *1 森 実 *1 田中 克彦 *2 伏脇 裕一 *2	沖積層の細菌類に対する浄化機能	土木学会
	横山 尚秀	神奈川県足柄平野下流部の地下水利用について	日本地理学会
	大山 正雄	箱根火山の地下水	地理学会
	* 1 神奈川県衛生研究所 * 2 神奈川県公害センター		
1984	長瀬 和雄	パソコン利用による井戸地質資料の整理について	日本地質学会
	長瀬 和雄	秦野盆地における立川ローム層内地下水の流れ — 地下水汚染の危険性 —	日本第四紀学会
	横山 尚秀 荻野 喜作	神奈川県西部、足柄平野扇状地の地下水温について	日本地理学会
	大山 正雄	箱根湯本・塔ノ沢温泉の湧出機構	地理学会
1985	長瀬 和雄	秦野盆地における雨水浸透槽による地下水の人工かん養	日本地下水学会
	粟屋 徹 平野 富雄 石坂 信之 大木 靖衛	箱根大涌谷噴気地帯の湧水の化学組成について	火山学会
	大山 正雄	箱根湯本・塔ノ沢温泉の水文	温泉科学会
	大山 正雄	箱根湯本・塔ノ沢温泉の湧出機構	地理学会
1986	大山 正雄	水位低下による岩盤地下水の湧出形態の変化	温泉科学会
1987	長瀬 和雄 小泉米次郎 *1	秦野盆地の地下水と地下水の人工かん養の現状	日本地下水学会

発表年	氏 名	演 題	学 会 名
1987	大山 正雄	地中海の島コルシカの水文環境	地下水学会
	大山 正雄	湯河原火山カルデラ内の河川流量と流域地質との関係について	陸水学会
	大山 正雄 水野 明哲 ^{*2}	箱根湯本湧泉の湧出解析	地理学会
	大山 正雄	箱根カルデラ内における地下水の流動機構	水文科学会
	* 1 神奈川県秦野市 * 2 工学院大学		
1988	長瀬 和雄	全国名水百選：秦野盆地有水群弘法の清水について	日本地下水学会
	棚田 俊收	東海地域の応力分布とスラブ形状との関係について	地震学会
	棚田 俊收 伊東 博	神奈川県温泉地学研究所における微小地震の検知能力について	地震学会
	吉田 和正 ^{*1} 加藤 渉 ^{*1} 山 伸治 ^{*1} 飯塚 進 ^{*1} 渡辺 茂 ^{*2} 加藤 照之 ^{*2} 長田 昇 ^{*2} 棚田 俊收	富士川周辺における微小・極微小地震観測（その6）	地震学会
	石坂 信之 ^{*3} 島 誠 ^{*3} 坂本 吉宏 ^{*4} 杉山 茂夫 大木 靖衛	神奈川県東部に分布する酸性泥岩の特徴について	日本地球化学会
	島 誠 ^{*3} 石坂 信之 ^{*3} 坂本 吉宏 ^{*4} 大木 靖衛	酸性泥岩の地球化学的検討について	日本地球化学会
	大山 正雄 鈴木 正明	割れ目系温泉の湧出機構	地理学会
	大山 正雄 水野 明哲 ^{*5}	湧泉の流出シミュレーション	水文科学会
	平野 富雄 石坂 信之 大木 靖衛	箱根塔ノ沢温泉中の硝酸イオンについて	温泉科学会
	* 1 東海大学海洋学部 * 2 東京大学地震研究所 * 3 横浜国立大学 * 4 筑波大学 * 5 工学院大学		
1989	大木 靖衛 黒川 義男 ^{*1}	宇佐美温泉に現れた1989伊豆半島東方沖群発地震・海底噴火の前兆現象	火山学会
	杉山 茂夫 大木 靖衛	箱根火山の地質構造	火山学会
	伊東 博 小鷹 滋郎 棚田 俊收 八巻 和幸 長瀬 和雄 横山 尚秀 大木 靖衛	神奈川県温泉地学研究所における地震・地下水位観測システム	地震学会
	大山 正雄	姥子湧泉の湧出量の変化	日本温泉科学会
	大山 正雄 粟屋 徹 平野 富雄	箱根火山の湧泉について	日本地下水学会

発表年	氏 名	演 題	学 会 名
1989	横山 尚秀 萩野 喜作*2 結田 康一*2 小前 隆美*2	酒匂川流域の水涵養機能評価	日本水文科学会
	平野 富雄*3 大木 富士子*3 島 誠*3 村山 治太*3	箱根火山の噴泉塔について	温泉科学会
	* 1 なまずの会会員 * 2 農林水産省 * 3 横浜国立大学		
1990	杉山 茂夫 大木 靖衛	箱根火山の中央火口丘噴気地域の深さ1000mまでの変質作用	火山学会
	H.Yokoyama Y.Oki	Upward Tendency in Groundwater Levels in the Upper part of Ashigara Plain	MOIRES of the 22nd Congress of IAH
	伊東 博 棚田 俊收 八巻 和幸 小鷹 滋郎	1990年 8 月 5 日小田原で発生したM 5 の地震活動について	地震学会
	横山 尚秀 伊東 博 棚田 俊收 八巻 和幸 小鷹 滋郎	1990年 8 月 5 日小田原で発生したM 5 の地震に対する前兆現象 — 地下水位の上昇 —	地震学会
	棚田 俊收 伊東 博	1990年 8 月 5 日小田原で発生した地震（M 5）の震度分布について	地震学会
	内田 康人*1 馬場 久紀*1 飯塚 進*1 吉川 徹*1 棚田 俊收	箱根火山とその周辺地域の地下構造(1)	地震学会
	石坂 信之 平野 富雄	相模野段丘の地下水の水質	日本地球化学会
	大山 正雄	湧出量の数値シミュレーションによる解析	温泉科学会
	平野 富雄	温泉法の温泉と常水との区別に関する地球化学的考察	温泉科学会
	* 1 東海大学海洋学部		



観測だよりの表紙に掲載されていたナマズの絵（大木氏作）

6 学会誌および専門誌等掲載

発表年	著 者 名	題 名	誌 名・頁・巻
1962	Y.Oki S.Oki* ¹ H.Shibata* ²	The systematic analysis of silicate rocks using ion exchange resin	Bull.Chem.Soc.Jap. 273-276・35・2
	* 1 東北大学 * 2 東京教育大学		
1963	大木 靖衛 萩野 喜作 広田 茂 松坂 進* ¹	温泉孔井の検層	温泉工学会誌 16-22・1・1
	* 1 (株)松坂屋		
1965	平野 富雄 大木 靖衛 田島 綾子	箱根大湧谷の温泉沈積物	温泉工学会誌 131-138・3・3
1966	大木 靖衛 萩野 喜作 広田 茂	温泉孔井の示差温度検層法	温泉工学会誌 73-82・4・2
1967	大木 靖衛 平野 富雄	炭酸物質を含む溶液系でのCa ²⁺ -沸石と方解石の安定関係	柴田秀賢教授退官記念論文 集 168-174
1968	S.Hiraga T.Minakami* ¹ D.Simoduru* ¹ T.Miyazaki* ¹ M.Yamaguti* ¹	The 1959 Eruption of Sinmoe-dake and the 1961 Iimori-yama Earthquake Swarm	Bull.Earthq.Res.Inst. 965-992・46
	大木 靖衛* ² 関 陽太郎* ² 松田 時彦* ¹ 奥村 公男* ³	丹沢山地南部の変成帯	フォッサマグナ, 日本地 質学会75年秋季学術大会 総合討論会資料 182-187
	* 1 東京大学地震研究所 * 2 埼玉大学 * 3 地質調査所		
1969	S.Hiraga T.Minakami* ¹ T.Miyazaki* ¹ H.Terao* ¹	The Ebino Earthquake Swarm and Seismic Activity in Kirishima Volcano, in 1968-1969, Part 2	Bull.Earthq.Res.Inst. 745-767・47
	S.Hiraga T.Minakami* ¹ T.Miyazaki* ¹	The Ebino Earthquake Swarm and Seismic Activity in Kirishima Volcano, in 1968-1969, Part 3	Bull.Earthq.Res.Inst. 769-781・47
	S.Hiraga T.Minakami* ¹ S.Uchibori* ¹	The 1968 Eruption of Volcano Arenal, Costa Rica	Bull.Earthq.Res.Inst. 783-802・47
	S.Hiraga T.Minakami* ¹ T.Miyazaki* ¹ S.Uchibori* ¹	Fundamental Research for Predicting Volcanic Eruptions, (Part 2)	Bull.Earthq.Res.Inst. 893-949・47
	Y.Seki* ² Y.Oki T.Matsuda* ³ K.Mikami* ⁴ K.Okumura* ⁴	Metamorphism in the Tanzawa mountains, Central Japan	Jour.Japan.Assoc.Min. Pet.Econ.Geol. 1-25・61・1
	Y.Seki* ² Y.Oki T.Matsuda* ³ K.Mikami* ⁴ K.Okumura* ⁴	Metamorphism in the Tanzawa mountains, Central Japan (II)	Jour.Japan.Assoc.Min. Pet.Econ.Geol. 50-75・62・1

発表年	著 者 名	題 名	誌 名・頁・巻
1969	Y.Seki ^{*2} Y.Oki	Wairakite-analcime solid solution minerals from the Tanzawa mountains, Central Japan	Min.Jour. 36- 45・ 6
	関本 一雄 大木 靖衛	神奈川県温泉	神奈川文化 1- 4・165
	* 1 東京大学地震研究所 * 2 埼玉大学 * 3 横浜国立大学 * 4 地質調査所		
1970	Y.Oki T.Hirano	Geothermal system of Hakone volcano	Geothermics Sp.issue 2 1157-1166・ 2
	H.Kuno ^{*1} Y.Oki K.Ogino S.Hirota	Structure of Hakone caldera as revealed by drilling	Bull.Volc 713-725・ 34
	* 1 東京大学地震研究所		
1971	平賀 士郎	箱根火山の地震 —地球物理—	日本火山学会編 「箱根火山」 103-138
	大木 靖衛	箱根火山の温泉	日本火山学会編 「箱根火山」 139-176
	大木 靖衛 平野 富雄	相模平野地下水の水質	相模川 49- 54・ 17
	Y.Seki ^{*1} Y.Oki H.Onuki ^{*2} S.Odaka	Metamorphism and vein minerals of north Tanzawa mountains, Central Japan	Jour.Japan.Assoc.Min. Pet.Econ.Geol. 1- 21・ 66・ 1
	大木 靖衛 岩田 義徳 ^{*3}	温泉の保護と適正利用	観光 50- 56・ 39
	* 1 埼玉大学 * 2 東北大学 * 3 神奈川県小田原保健所		
1972	大木 靖衛 平野 富雄	伊豆・箱根の温泉	「伊豆半島」, 東海大学出版会 133-154
	大木 靖衛 平野 富雄	箱根温泉の湧出機構と成因	地熱 15- 29・ 32
	平賀 士郎	日本における地熱地帯の群発地震	地熱 30- 39・ 32
	Y.Seki ^{*1} Y.Oki S.Odaka K.Ozawa	Stability of modenite in Zeolite facies Metamorphism of the Oyama-Isehara district, east Tanzawa mountains, Central Japan	Jour.Geol.Soc.Japan. 145-160・ 78・ 3
	* 1 埼玉大学		
1974	Y.Oki T.Hirano	Hydrothermal system and seismic activity of Hakone volcano	The Utilization of Volcanic Energy 13- 40
	Y.Oki T.Hirano T.Suzuki	Hydrothermal metamorphism and vein minerals of the Yugawara geothermal area, Japan	Proceed.Internat.Symp. Water-Rock Interaction, Prague 209-222
	関 陽太郎 ^{*1} 大木 靖衛	水—岩石相互作用シンポジウム	科学 772-774・ 44・ 12
	* 1 埼玉大学		

発表年	著 者 名	題 名	誌 名・頁・巻
1975	大木 靖衛 袴田 和夫*1	箱根芦ノ湖の誕生の謎をさぐる	国土と教育 2- 9・ 5
	大木 靖衛	箱根カルデラはどうしてできたか	国土と教育 13- 15・ 5
	平野 富雄 大木 靖衛	箱根の温泉	国土と教育 30- 33・ 5
	大木 靖衛 平野 富雄	火山性温泉	日本火山学会編 「地球と火山」 331-340・ 20
	大木 靖衛	箱根の温泉、碑に添えて	箱根町 1- 9
	荻野 喜作 横山 尚秀 大木 靖衛	足柄平野の地下水	酒匂川 77- 90・ 11
* 1 箱根町立大湧谷自然科学館			
1976	横山 尚秀	秦野盆地・水無川扇状地の深層地下水について	地理学評論 640-645・ 49・ 9
1977	Y.Oki T.Suzuki T.Hirano	High pH ground waters of the Tanzawa mountains, Japan	Proc.2ndInternat.Symp. Water-Rock Interaction, Prague 1- 14・ 1
1978	横山 尚秀	秦野盆地・水無川扇状地における地下水の水収支	日本の水収支 146-156 古今書院
	Y.Oki	Volcanoes Hakone, Izu, and Ohshima	箱根町
	Y.Oki T.Hirano	Geochemistry of the Hakone, Yugawara and Atami hydrothermal systems	AGU 1978 Fall Meeting Abstracts, EOS 59・ 1220
	酒井 均*1 大木 靖衛	日本の温泉	科学 41- 52・ 48
	大木 靖衛	箱根火山	アーバンクボタ 22- 45・ 15
	* 1 岡山大学温泉研究所		
1979	大木 靖衛	箱根・火山と温泉	神奈川合出版
	大木 靖衛 渡辺 暉彦*1	地熱と温泉	「岩波講座 地球科学 7 火山」, 岩波書店 215-246
	S.Matsuo*2 M.Kusakabe*3 M.Niwano*4 T.Hirano Y.Oki	Water budget in the Hakone caldera using hydrogen and oxygen isotope ratios	Isotopes in lake studies, IAEA, Vienna 131-144
	* 1 東京大学地震研究所 * 2 東京工業大学 * 3 岡山大学 * 4 東京教育大学		
1980	平賀 士郎	地下熱水活動と群発地震との相関	自然災害資料解析 123-138・ 7
	大木 靖衛 平賀 士郎	水位変化と地震予知	地震—地震学者と地質学者との対話— 239-257, 東海大学出版会

発表年	著 者 名	題 名	誌 名・頁・巻
1980	長瀬 和雄	秦野盆地の地下水の人工かん養	用水と排水 47- 56・22
	長瀬 和雄	秦野盆地における地下水の人工かん養	工業用水 65- 72・205
	大木 靖衛	箱根火山	「関東地方」, 朝倉書店 209-212
	関 陽太郎* ¹ 大木 靖衛 平野 富雄	地熱地帯下部で形成された Chlorite-Montmorillonite 系鉱物のタイプ分け試案	岩石鉱物鉱床学会誌 55- 61・75・2
	Y.Seki* ¹ J.G.Liou* ² Y.Oki F.Dickson* ² H.Sasaki* ³ T.Hirano	The interaction between Miocene volcanogenic rocks and seawater-meteoric water mixtures in near coast undersea part of the Seikan Tunnel, Japan	Hydroscience and Geotechnology Lab. Saitama Univ.Memoir. 1-123・1
	* 1 埼玉大学 * 2 スタンフォード大学 * 3 工業技術院地質調査所		
1981	長瀬 和雄* ¹ 尾上 洋一* ¹ 内藤 昭治* ¹ 高橋 考則* ¹ 森 実* ² 田中 克彦* ² 伏脇 裕一* ²	地層の地下水に対する浄化機能に関する研究	神奈川県試験研究連絡協議会環境部会共同研究報告書 31- 62・2
	平賀 士郎* ³ 宮崎 務* ³ 行田 紀也* ³	富士火山の地震活動	東京大学地震研究所彙報 391-414・56
	* 1 神奈川県衛生研究所 * 2 神奈川県公害センター * 3 東京大学地震研究所		
1982	長瀬 和雄 木村 政子 相原 宗由 小林 徳博 島田 利子 山谷 孝樹	秦野逆断層	地質学雑誌 401-403・88
	大木 靖衛 (編集委員)	日本の地熱資源に関する火山学的研究	56エネルギー総合開発-12 日本機械工業連合会 日本火山学会
	大木 靖衛 平野 富雄	グリーン・タフ変質作用の熱水	「水-岩石相互作用に関する地球化学的研究」 105-107
	平野 富雄	大湧谷温泉の泉質	箱根温泉供給社史 161-169
1983	平賀 士郎 大木 靖衛	地震と都市災害	地質学論集 5- 11・23
	大木 靖衛	カルデラ鍋 箱根山	鉄の話題 14- 15・43
	Y.Seki* ¹ J.G.Liou* ² R.Illemette* ² H.Sasaki* ³ Y.Oki T.Hirano H.Onuki* ⁴	The investigation of Geothermal Systems in Japan I Onikobe Geothermal Area	Hydroscience and Geotechnology Lab. Saitama Univ.Memoir. 1-206・3
	* 1 埼玉大学 * 2 スタンフォード大学 * 3 岡山大学 * 4 弘前大学		

発表年	著 者 名	題 名	誌 名・頁・巻
1984	大木 靖衛	箱根火山の地形とおいたち	採集と飼育 193-201・46・5
	大木 靖衛 平野 富雄	箱根の地質構造と温泉	採集と飼育 202-205・46・5
	大山 正雄	ヨーロッパの温泉	大百科辞典, 平凡社
1985	長瀬 和雄	秦野盆地の雨水による地下水かん養実験	地下水技術協会 2-11・27・4
	平野 富雄	おいしい水道水	地学教育と科学運動 165-168・14
	S.Matsuo ^{*1} M.Kusakabe ^{*2} M.Niwano ^{*3} T.Hirano Y.Oki	Origin of thermal waters from the Hakone geothermal system, Japan	Geochem.Jour. 27-44・19
	大木 靖衛	箱根芦ノ湖の湖底木から見た小田原付近の巨大地震	月刊地球 426-430・7・8
	大木 靖衛	地下水位変化による地震予知	しんかんきょう
	大山 正雄 平野 富雄 大木 靖衛	箱根の地下水とその利用	神奈川県衛生部 1-29
	*1 東京工業大学 *2 岡山大学 *3 東京教育大学		
1986	Y.Seki ^{*1} F.Dickson ^{*2} J.G.Liou ^{*3} Y.Oki ^{*4} H.Sakai ^{*4} T.Hirano	Geochemical prediction of impending catastrophic inflow of seawater during construction of the under sea part of the Seikan tunnel, Japan.	Applied Geochem. 1
	大木 靖衛 (監 修)	箱根温泉史	箱根旅館組合
	大木 靖衛 (共 著)	関東地方	共立出版
	Y.Seki ^{*1} K.Watanabe ^{*1} T.Hirano	Experimental Water-basalt Interactions and Water Chemistry of Mount Fuji Five Lakes	Proc. of 5th Intern. Symp Water-Rock Interact on 1986 507-510
	*1 埼玉大学 *2 ネバダ大学 *3 スタンフォード大学 *4 東京大学		
1987	大木 靖衛 (編者)	日本の火山	平凡社
	関 陽太郎 ^{*1} 平野 富雄 渡辺 邦夫 ^{*1}	福島県小高町薬師堂石仏群の劣化と水・岩石相互作用	岩石鉱物鉱床学会誌 269-279・82・7
	大山 正雄	コルスの水文環境と水利用	地域研究 33-45・28・2
	大山 正雄	箱根カルデラ河川の流量	箱根町
	*1 埼玉大学		
1988	大木 靖衛 ^{*1} 袴田 和夫 伊東 博	箱根の逆さ杉	かなしん出版

発表年	著 者 名	題 名	誌 名・頁・巻
1988	平野 富雄	箱根、北伊豆地熱地帯の温泉	化学と工業 140-142・41・10
	平野 富雄 大木 靖衛	箱根、伊豆地熱地帯の熱水の地球化学	鹿児島国際火山会議論文集 948-951
	伊神 輝 ^{*2} 浅野 周三 ^{*3} 額 一起 ^{*3} 森谷 武男 ^{*4} 伊藤 潔 ^{*5} 棚田 俊收 ^{*6} 吉田 和正 ^{*3} 矢吹 哲一郎 ^{*3} 平田 直 ^{*3}	人工地震観測による地殻構造	月刊地球 687-692・10・11
	Y.Oki S.Hiraga	Groundwater monitoring for earthquake prediction by amateru network in Japan.	Pageoph 212-240・126
	大木 靖衛	箱根山	「空から見る日本の火山」 丸善 151-154
	* 1 箱根町立大湧谷自然科学館 * 2 名古屋大学理学部 * 3 東京大学地震研究所 * 4 北海道大学理学部 * 5 京都大学理学部 * 6 東海大学海洋学部		
1989	大山 正雄	箱根の湧泉	ハイドロロジー 75- 87・17・ 2
	平野 富雄 石坂 信之	神奈川県温泉	京浜文化 10- 21・31・ 2
1990	伊東 博	神奈川県温泉地学研究所の紹介	地震学会ニュースレター 42- 43・11・ 5
	袴田 和夫 ^{*1} 伊東 博 棚田 俊收	1988年箱根強羅大沢の崩壊について	大湧谷自然科学館調査研 究報告 7- 12・ 9
	八巻 和幸 ^{*2} 鈴木 寿美 ^{*2} 木下 肇 ^{*2} 平田 直 ^{*2} 浅沼 俊夫 ^{*2}	高速モデムを用いた多チャンネル地震観測システムの開発	千葉大学海洋生態系研究 センター年報 83- 87・10
	T.Sasatani ^{*3} T.Yoshii ^{*4} A.Ikami ^{*5} T.Tanada T.Nishiki ^{*4} S.Kato ^{*3}	Upper Crustal Structure under the Central Part of Japan: Miyota-Shikishima Profile	Bull.Earthq.Res.Inst. 33- 48・65
	T.Yokoyama Y.Oki	Upward Tendency in Groundwater Levels in the Upper part of Ashigara Plain	MEMOIRES of the 22nd Congress of IAH 925-931・XXII・ 2
	大木 靖衛 ^{*6} 鈴木 幸治 ^{*6} 伊東 博 ^{*6} 青木 滋 ^{*6}	1990年東頸城群発地震について	新潟大学災害研究所年報 15- 23・12
	平野 富雄	温泉の化学	第30回温泉経営管理 研究会資料 1- 22
	* 1 箱根町立大湧谷自然科学館 * 2 千葉大学理学部 * 3 北海道大学理学部 * 4 東京大学 * 5 名古屋大学理学部 * 6 新潟大学積雪地域災害研究センター		
1991	T.Hirano	Iron and Hot Springs	NIPPON STEEL NEWS 4・225

7 博士学位取得者および論文題目

研究所に勤務し、仕事の成果をまとめた博士論文は、1977（昭和52）年に最初の学位が出てから1991（平成3）年6月までに6編出ている。これらの学位論文は、水文学関係が3編、地震学関係が2編、地球化学関係が1編である。学位取得者および題目等は下記の通りである。

氏 名	論 文 題 目	交付大学	交付年月
横山尚秀	秦野盆地、水無川扇状地・地下水の水収支研究	東京教育大学	1977年11月
長瀬和雄	秦野盆地の水文地質学的研究	東京教育大学	1977年12月
平野富雄	Hydrothermal alteration of volcanic rocks in the Hakone and northern Izu geothermal areas. (箱根、北伊豆地熱地帯の岩石の熱水変質作用)	東北大学	1980年3月
平賀士郎	箱根火山と箱根周辺海域の地震活動	東海大学	1986年9月
棚田俊收	Earthquake focal mechanisms, Source parameters and their tectonic significances in the Tokai region, central Japan. (東海地方における地震の発信機構と震源パラメータおよびその地学的意義について)	東海大学	1989年3月
大山正雄	箱根火山湧泉の水文学的研究	立正大学	1991年6月

博士論文について若干のコメントをすると以下のようである。

横山尚秀は水無川扇状地における水文学的特性および地下水の水収支を実測とデジタルシミュレーションによって定量的に検討した。長瀬和雄は秦野盆地の水文地質および人工涵養等による地下水の有効利用が可能であることを明らかにした。平野富雄は水-岩石相互作用の視点から箱根、北伊豆地熱地帯に分布する温泉の主要化学成分や岩石の熱水変質作用を考察した。平賀士郎は箱根火山に発生する地震活動の観測を行い、箱根カルデラ内外の地震の特性および箱根周辺海域の地震活動との関連についての18年間の研究を総括した。棚田俊收は東海地域での沈み込むプレートの微細形状と地震応力分布状態との関係を明らかにした。大山正雄は地下水の露頭である湧泉を対象にして、箱根火山地下水の循環機構および地下水開発や地形改変による湧出形態の変化を数値シミュレーションによって定量的に解析した。

なお、棚田の論文は主に東海大学での研究をまとめたものである。

第4節 講 習 会

講習会は1970年10月から毎年1回以上開催され、1991年2月までに延べ54人の講師に協力していただいた。講師は大学教授、外国人、温泉旅館の経営者と幅の広いものである。したがって、内容は多義にわたっており、また、その時々のもっともホットな話題も取り上げられた。これは研究所の活動を社会的・経済的分野も含めた総合的観点で考えようとするためである。講習会は研究員の質的向上を主目的としているが、講習会は研究員のみならず、県内の自治体職員など関係者にも呼びかけ、毎回活発な議論が交わされている。



Yves Tardy (イヴ ターディ) 氏 (フランス) による講演 (1982年11月)

講演日	講演者 (所属)	講演題目
1970.10.13	水上 武 (元東京大学地震研究所)	箱根火山の地震
1970.11.18	田村 正平 (東京大学物性研究所)	原子吸光分析法の水分析への応用
1971. 3.31	関 陽太郎 (埼玉大学)	各国の温泉・地熱地帯の岩石の変質の研究
1971 8. 3	S.Hgelmquist (スウェーデン)	スウェーデンの地質とプレカンブリアンのイグニングライト
1972. 1.21	田村 正平 (東京大学物性研究所)	原子吸光分析の原理
1972. 3.16	関 陽太郎 (埼玉大学)	丹沢山地の沸石相について
1972. 9. 5	井島 房五郎 (河鹿荘)	箱根湯本、湯場の温泉について
1972 11. 7	天野 宏 (小田原城内高校)	アイスランドの火山と温泉
1972.11.28	八亀 昌美 (亀屋旅館)	湯河原温泉について
1973. 2. 1	田村 正平 (東京大学物性研究所)	硫化水素について
1973. 2.20	松尾 禎士 (東京工業大学)	箱根火山の同位体について
1973. 2.22	柴崎 達雄 (東海大学)	被圧地下水の水収支
1973.10.16	井島 房五郎 (箱根湯本 河鹿荘)	ドイツの温泉について
1973.10.20	山口 久之助 (北海道地下資源調査所)	地下水探査法
1973.12. 6	笠原 慶一 (東京大学地震研究所)	地震と人類の関係
1974. 3.14	田村 正平 (東京大学物性研究所)	硫化水素の測定について
1974. 6.25	山本 莊毅 (東京教育大学)	日本の地下水問題
1974.12.17	中村 一明 (東京大学地震研究所)	1. プレートテクトニクス 2. 火山
1975. 1.27	田村 正平 (東京大学物性研究所)	最近の分析化学について
1975. 3. 4	河村 文一 (元 横浜国立大学)	神奈川県温泉行政の歴史について
1975. 9.23	J.Tomasson (アイスランド)	アイスランドの地質と火山
1976. 1.27	田村 正平 (東京大学物性研究所)	生活排水処理の諸問題について
1976. 1.30	新藤 静夫 (筑波大学)	関東平野の地下水
1977. 1.31	田村 正平 (東京大学物性研究所)	水素イオン濃度
1977. 6.10	関 陽太郎 (埼玉大学)	青函トンネルについて
1978. 2.14	田村 正平 (東京大学物性研究所)	排水処理
1979. 3. 1	田村 正平 (東京大学物性研究所)	水の化学
1979. 3.26	関 陽太郎 (埼玉大学)	地熱地帯における熱水変質作用
1980. 2. 5	田村 正平 (東京大学物性研究所)	水の浄化について
1980. 2. 5	三本木 健治 (環境庁建設省計画)	地下水保全と管理

講演日	講演者 (所属)	講演題目
1980. 2.25	中村 一明 (東京大学地震研究所)	伊豆半島の地震と火山
1980. 3. 3	関 陽太郎 (埼玉大学)	粘土鉱物について
1981. 1.27	飯村 武 (県環境部自然保護課)	箱根の動物
1981. 1.28	田代 道彌 (箱根強羅公園園長)	生物地理学からみた箱根の位置
1981. 2.23	田村 正平 (東京大学物性研究所)	水とエネルギー
1981. 3. 4	柴崎 達雄 (東海大学海洋学部)	地下水資源論
1982. 2.16	中川 重年 (県林業試験所)	関東地震で倒れた丹沢の木
1982. 3. 4	田村 正平 (東京大学物性研究所)	偏在と遍在 (エネルギーと時間)
1982.11. 2	Yves Tardy (フランス)	From Bauxite to Natron in Tchad: Magnesim control in sodium bicarbonate water and Evaporite
1983. 1.25	守屋 喜久夫 (日本大学理工学部)	世界の大地震
1983. 3.22	田村 正平 (東京大学物性研究所)	水の不思議な性質と生命
1984. 2.24	田村 正平 (東京大学物性研究所)	磁気と化学
1985. 3.12	田村 正平 (東京大学物性研究所)	化学の心
1986. 3.24	田村 正平 (東京大学物性研究所)	化学の魅力
1987. 3.10	田村 正平 (東京大学物性研究所)	これからの化学の進む道
1987. 3.30	石橋 克彦 (建設省建築研究所)	小田原地方の大地震について — その地震予知研究上の意義 —
1987.12.15	生山 匡 (明治生命厚生事業団体)	温泉と健康づくり
1989. 2. 8	伊藤 喜一郎 (神奈川県衛生部環境衛生課)	ヨーロッパの温泉と神奈川の温泉
1989. 2. 8	岡田 紀子 (昭和女子大学)	温泉と大極拳
1989.11.10	Hrefna Kristmannsdottir (アイスランド)	アイスランドの地熱活動
1990. 2. 6	山崎 晴雄 (通商産業省工業技術院地質調査所)	神奈川県西部の活断層と地震活動
1990. 3.22	丁、黄、郭、王、張 (中華人民共和国広東省国家地震局)	広東省における地震観測
1991. 2. 7	鈴木 喜計 (千葉県君津市役所環境部)	地下水汚染の実態把握と処理対策
1991. 2.21	日下部 実 (岡山大学地球内部研究センター)	(1) カメルーンガス災害とその後 (2) 沸石鉱物の酸素同位体地球科学

第5節 研 修

1 職員の国内外研修等

年 月	氏 名	内 容	調査国・研修地
1968	平賀 士郎	＜国際協力事業団による依頼調査＞ アレナル火山の噴火活動調査	中米コスタリカ
1976	長瀬 和雄	＜大学院等派遣研修＞ 放射性元素を利用した地層の地下水の年代決定法について	東京教育大学 理学部 地質学鉱物学教室
1977.8	大木 靖衛	＜海外出張＞ 水－岩石相互作用学会出席	フランス
1985.12	平賀 士郎	＜神奈川県メキシコ地震被害調査団（団長）＞ メキシコ地震被害調査	メキシコ
1989.10	横山 尚秀	＜海外個別派遣研修＞ ハイクテク汚染等の地下水流動解析のための地下水モデリング技法の調査研究	スウェーデン・ノルウェー・ オランダ・フランス・スイス
1991.3	平野 富雄	＜海外出張＞ 中国の地震	中 国

海外個別派遣研修の概要

県自治総合センターで募集した平成元年度海外個別研修生としてヨーロッパに派遣していただいた。研修期間は1989（平成元）年10月2日～11月22日の約2カ月間、研修課題は「ハイクテク汚染等の地下水問題とモデリング技法の研究」である。いわゆるハイクテク電子工場で代表される事業所が引き起こしている有機塩素系の地下水汚染が話題となり、タイムリーな課題設定であった。研修はオランダの国際モデリングセンターで開催されたショートコース（地下水汚染モデルの応用）への参加を主体に、各国の研究機関を訪問した。各研究機関では、自国で抱える地下水問題と調査研究の状況について説明を受け、モデルの開発と応用を主に研修できた。国別の研修項目は次表のとおりである。

表1 訪問国と研修項目

国 名	滞在期間	研 修 事 項
1 スウェーデン	1989.10.03～10.09	地下水流動モデル、地下地質データベース、 水文地質図、地下水保全域と人工涵養
2 ノルウェー	10.10～10.14	水文地質図、地下水保全計画
3 オランダ	10.15～11.03	地下水利用と保全対策、及び地下水保全域の設定、 地下水汚染解析モデル、地層利用による河川水浄化、 IGWMCにおける地下水汚染モデルの適用研修
4 フランス	11.04～11.08	地下水モデル化技術、汚染機構研究、山地の流出解析
5 スイス	11.09～11.18	ベルン州の水文地質、地下水流動モデル解析、ベルン州 地下水保全域、山岳地域と谷底平野の地下水開発と保全

国別研修内容

- (1) スウェーデンでは地質調査所、ウプサラ大学、コンサルタント VBB-SWECO、等を訪問し、地下水流動モデル、水文地質図と地下水汚染可能性評価、地下水保全域の設置と人工涵養（写真1）等について研修した。
- (2) ノルウェーでは水文地質図の整備と地下水保全計画について説明を受けた。
- (3) オランダでは中央応用科学研究協会、環境省、国立公衆衛生・環境研究所、国際モデル化センターを訪問した。地下水質保全のための地下水保全域設定、地下水汚染解析のためのモデル化手法とその応用（写真2）、国際的な水文学の調査研究支援、地下水汚染可能性評価等について研修した。
- (4) フランスではルイパスツール大学地質研究所、同水理研究所を訪問し、地下水汚染モデル開発、汚染機構研究、等について研修した。
- (5) スイスではベルン州水エネルギー局の地質研究所、ヌーシャテル大学、ローザンヌ連邦工科大学等を訪問し、水源開発と地下水調査研究、水文地質図、地下水保全域、河川の汚染と地下水汚染、山地地下水モデル開発、等について研修した。

(横山尚秀)



写真1

ウプサラ郊外のテュン・エスカーの地下水人工涵養池
(1989年10月)

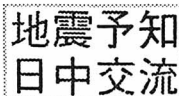


写真2

ショートコース会場の水理・環境工学国際研究所
(デルフト工科大学)
(1989年10月)

年度	氏 名	内 容	留 学 期 間
1984	馮 綯敏 (中国広東省地震局)	1.日本および中国における地震前兆地下水異常について 2.島弧と大陸における地球化学的地震前兆現象の比較 3.富士山麓および箱根カルデラの地下水の水質比較	1984年10月14日 } 1985年 4 月12日

解



浦根町の本にある「明治温泉地帯研究所大木洞窟所蔵」で、中国の女性科学者が地帯の研究をしている。地帯図・日本で採用されている地帯の知識の方法を調査するのが目的で、半年間滞在して、同研究所で研修を受けるほか、栗海大、東大なども訪れ、研究を深めるといふ。

研究所で大木所長と歓談する馮さん

馮絢敏さん

「中留予」は、中国で知識を得て日本へいるが、研に携わっていないのが、彼等にとって、問題になっている。この点も我々が考えている。この点も我々としては、約百員の会費、全学各地方支店などの職員を擁護して、民間ボラティアグループ（「なすの会」）の女性幹部は中留予と省民に紹介され、活動の範囲はホン・シニア（老人ホーム）、中国大使館、南部地区の警察署などに広がっており、地味だが、多岐に及び、地道な方法で社会に貢献している。多くの協力が元々の大陰謀にあるという批判的

全国網の民間グループ
高い的中率勉強

[illegible]

「なまずの会」に中国女性学者

編集後記

研究所の記念誌を発行する考えは節目にあたる研究所設立の20年目、25年目にもあったが、実現するまでに到らなかった。今回の30年誌発行の提案は1990（平成2）年9月頃、平野富雄所長から出された。研究所の設立以来29年間勤めていた大木靖衛元所長がその年6月に退職し、1995（平成7）年に再編整備にあわせて研究所を建て直すことが決まったことも大きな契機になっている。編集委員長は12月末に任命され、翌1月に編集委員会の組織と同時に編集構成と内容が決まった。編集にあたり、参考として他所での記念誌が収集された。ここでまず驚いたことは、会社関係も含めて創立編集誌の70%以上が30年誌である。考えてみると、30年は一人の人間が職場に勤めている期間に相当するものである。このことは世代変わりを意味し、研究所といえども一つの組織が大きく変わる時期にもあたっている。したがって、30年誌は必然的なものといえる。しかし、編集が始まるとなかなか大変であった。一つは各執筆者が多くの仕事を抱えていたことである。もう一つは事業年報が作成されていないことも関係し、多くの事柄が数年前までしか遡れないことである。所員の記憶やメモ、あるいは関係者に問い合わせることにもなった。

本書は3章から成っている。第1章は概史、第2章は30年間における温泉、地震、地下水、地質の各部門の調査・研究、第3章は資料である。各ページには写真や図を挿入して文字で埋まらないようにし、読んで（見て！）理解し易いように努めた。編集委員会の発足から1年足らずであったので、内容や形式について掘り下げた討議や当初の目的が十分にはたせない問題を残したまま、タイムリミットをもって原稿を印刷所に渡すことになった。そのため、印刷を引き受けて下さった株式会社佐藤印刷所には多大な迷惑をかけてしまった。それにもかかわらず、私たちの意に答えて下さり、仕事をしていただいたことに対して心からお礼を申し上げる次第である。不十分であるが、本書は初めて第2章で各部門の調査研究のいきさつ、経過とその発展、そして成果などを総括し、第3章で研究所の活動に関する資料をほぼ網羅したものと自負できる。今後、読者の方々からのご意見やご指摘をいただき、これを参考にして更に充実した記念誌を期したい。

最後になるが、本書の作成にあたり、多くの方々には暖かい支援と協力をいただいた。ここに厚くお礼申し上げます。

1992（平成4）年1月

編集委員を代表して 大山正雄

「温泉地学研究所30年のあゆみ」編集委員会委員

委員長 大山正雄
委員 栗屋 徹
委員 棚田俊收
委員 八巻和幸
委員 松沢親悟

温泉地学研究所30年のあゆみ

1992年1月

発 行 神奈川県温泉地学研究所
神奈川県足柄下郡箱根町湯本997
電話 0465 (23) 3588

企画編集 神奈川県温泉地学研究所
印刷所 株式会社 佐藤印刷所
